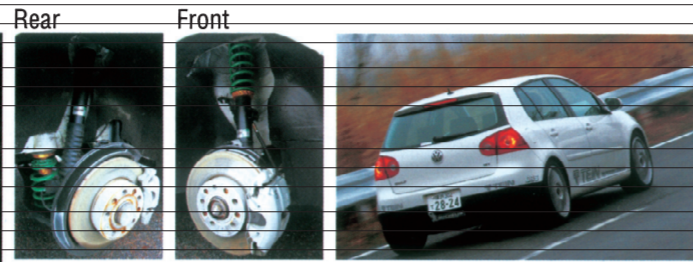


EURO DAMPER



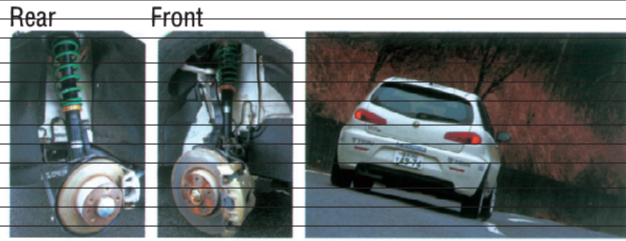
VW GOLF V

ゴルフVは、リヤのスタビリティの高さが際立っているが、テインもそのリヤの安定性をスポイルさせずにフロントのグリップ感を引き上げる味付けにしていた。頭の入りは決してシャープすぎず、自然な感覚で扱いやすい。



ALFA ROMEO147

かなりハードな味付けのニューマルサスベンションに対し、少しマイルドにセットされたアルファロメオ専用キット。他のモデルに比べるとスポーツライクな味付けだが、これはベースの設計による所が大きいはずだ。

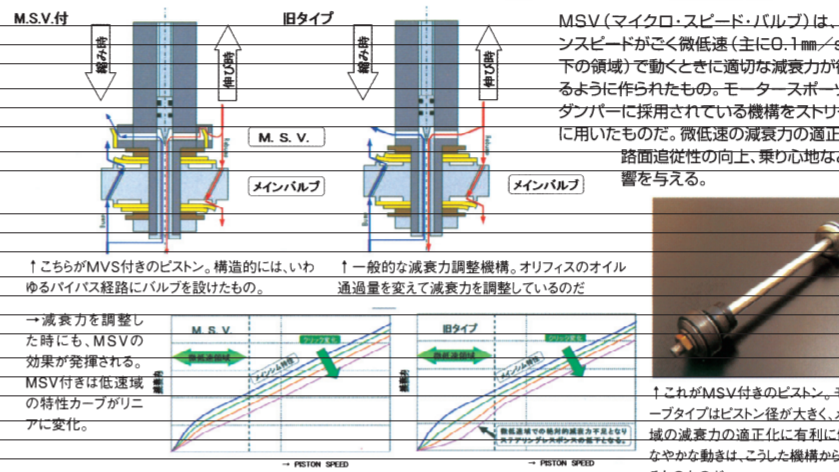


気になるところは、そのコンセプトだ。セッティングは、日本市場向け、アメリカ向け、ヨーロッパ向けを全て共通にするというか、その味付けは日本のローダウン・インテックアップを想定して熟成が進められている。スタビリティとレスポンスの両方に対して最も厳しい要求をする日本のユーザーを満足させ、それをアメリカとヨーロッパのユーザーに示したいという意図のようだ。高速安定性をキープしつつ、純正アルファのスポーツ性を保持させ、フラットなドライビング感覚を演出する。この乗り心地を実現させたのが、このローダウンキットといっしょだ。

用試された試乗車は、BMWのE90、メルセデスのCクラス、アルファロメオの147、アウディTT、BMWの1シリーズの116i、5月のリリース時にはBMWの5シリーズ、MINI、ピルチットなどもラインナップに加わり、それ以降にも設定モデルの発表が続いていくことになる。さて、個々のドライビングをお伝えする前に、少しだけ機能的な説明をしておこう。キットの内容は、車高調整式のダンパーと専用のスプリングで、アッセンブリと交換できるようにアッパーマウントをもセットしている。このアッパーマウントは、純正のマウントを流用するタイプ、マウントそのものを強化したタイプ、ピロールサポートに合わせたタイプなどがあり、それぞれ車種ごとに最適なバリエーションが用意されている。リヤに関しては、スプリングとダンパーが別体になっているタイプは、スプリングシートに車高調整機構を持たせたタイプが組み合わされる。シエラケースは、トラック処理されており、車高調整のネジ部は特殊ブツ素コーティングして耐腐蝕性を高める処理が施されている。ダンパー本体は、いわゆる「デュープ」(単筒式)の減衰力調整機構付きとなる。そのピストン部には、モーター・スプリング用のダンパーにも採用されているMSV(マイクロ・スピード・バルブ)が採用され、乗り心地や安定感に影響がある最低減衰(リニアモード)の減衰力を制御することで、理想的な特性に仕上げることができた。ちなみに、減衰力の調整機構は16段階調整式で、別売のEDFC(電子制御ユニット)と組み合わせると室内で簡単に減衰力調整ができるようになる。このユニットダンパーに関しては、全てのキット

にEDFCが装着できる設計だ。

快適性を損なわず 速度なローダウンを可能にした M.S.V.とは?



↑こちらがMSV付きのピストン。構造的には、いわゆるバイパス経路にバルブを設けたものだ。↑一般的な減衰力調整機構。オフィスのオイル通過量を変えて減衰力を調整しているのだ。

→減衰力を調整した時にも、MSVの効果が発揮される。MSV付きは低速域の特性カーブがリアに変化。

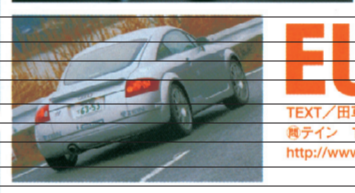
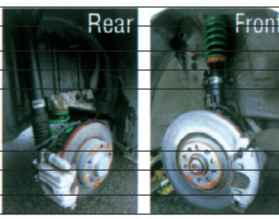
MSV(マイクロ・スピード・バルブ)は、ピストンスピードがごく低速(主に0.1mm/sec以下の領域)で動くときに適切な減衰力が得られるように作られたもの。モータースポーツ用のダンパーに採用されている機構をストリート用に用いたものだ。低速域の減衰力の適正化は、路面追従性の向上、乗り心地などに影響を与える。

↑これがMSV付きのピストン。モノチューブタイプはピストン径が大きく、メイン領域の減衰力の適正化に有利に働く。しなやかな動きは、こうした機構から来ているものなのだ。



AUDI TT

アウディTTは、少し高めめのスプリングレートにしてボディの変形を抑えているが、快適な乗り心地を確保するために減衰力は弱めにセットされている。荷重移動させやすく、自然で運転しやすい足に仕上げられていた。



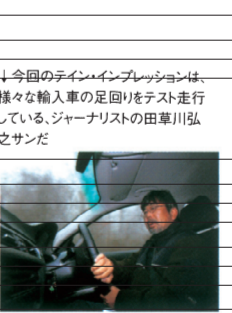
TEIN EURO DAMPER

TEXT/田原川弘之 PHOTO/田村義典
販売店 TEL 045-810-5501
http://www.tein.co.jp/

テインが仕上げた車高調整+室内減衰力調整ができる輸入車専用サスペンションが登場!!

真面目にじっくり仕上げた輸入車専用ダンパーができた!

テインは、20年ほど前からモーター・スプリング用のダンパー作りを行ってきたサスペンション専門メーカーだ。社長の市野と専務の藤本氏は、トヨタがセリカでWRXを戦っていた時のワークスドライバーで、サブアリアリで総合優勝を勝ち取るなど、日本人ドライバーの先駆者の存在として知られている。設立当初は、自分たちが満足できるリールのサスペンション作りからスタートしたが、コンプレッションのサスペンションの他にも、ユーザーに合わせたリール用のサスペンションを展開。今ではボディタイプごと、使用するア



↓今回のテインインプレッションは、様々な輸入車の足回りをテスト走行している、ジャーナリストの田原川弘之さんだ。